

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

関東支部発

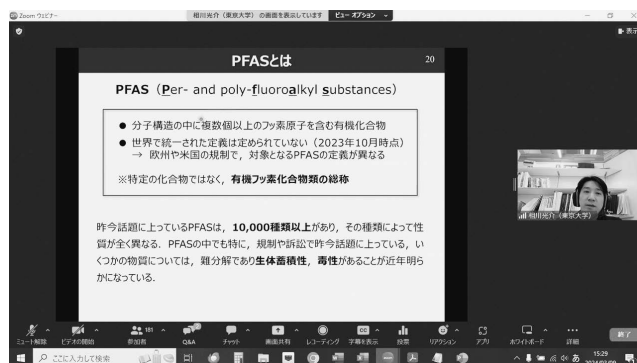
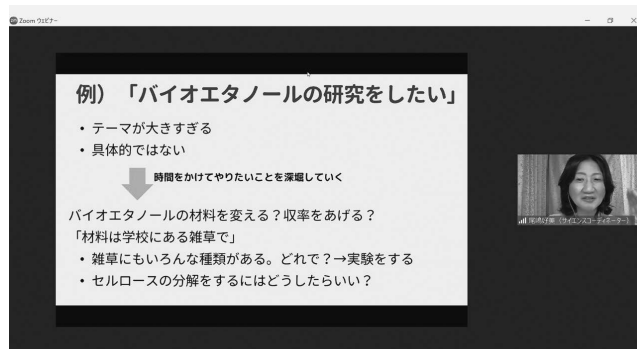
化学教育懇談会フォーラム 「授業に役立つ化学の話 V」

関東支部化学教育協議会主催の理科・化学教育懇談会フォーラム「授業に役立つ化学の話 V」が3月9日（土）にオンラインで開催されました。

まず、尾嶋好美先生（サイエンスコーディネーター）が「家庭でできる化学実験としての『料理』」と題して、講演されました。「ひき肉をこねる際、食塩を入れると粘りが出るのは、筋肉を構成するタンパク質のミオシン分子が溶けだして互いに絡まり合うから」のように、料理の「なぜ？」が化学の入り口になることを平易に説かれ、引き続き、高校の理数探求の課題設定方法について、ご自身の経験に基づいて、現場の先生のヒントになりそうなお話をいただきました。

続く岩田沙織先生（株式会社島津理化）のご講演「理科教育における ICT 機器の活用」では、理数探求の実験に使えるような計測ソフトの紹介がありました。種々のセンサと組み合わせて、簡単な操作で温度、導電率、pH など多様な物理量のデータを、設定した時間間隔で取り込んでグラフ化させるもので、中高の先生には大いに参考になったと思います。筆者ら自身も使ってみたくなるシステムで、企画委員からは「いい時代になったなあ」という声も聞かれました。

最後に、「有機フッ素化合物の化学」の演題で相川光介先生（東京大学特任准教授）からご講演いただきました。まず、テフロンや薬を例に、我々の生活を豊かにしている有機フッ素化合物の説明がありました。次に、マスコミで



話題のPFASはフッ素原子を複数含む1万種を超える化合物の総称であり、健康被害の懸念から製造・使用が禁止された「特定PFAS」はそのうちの3種だけであると説かれ、聞きかじりではない正確な知識を持つことの大切さが伝わりました。

事前登録者が300名以上と、本企画への関心の高さがうかがわれ、それは講演後の活発な質疑応答でも強く感じられました。ご参加の皆様には、ぜひ今後にお役立ていただければと思います。

（工藤一秋 東京大学生産技術研究所 教授）